

【第六九回研究例会（怪異の聞き方・書き取り方―〈口承〉研究の視点から）】

本例会の企図

今井 秀和

第六十九回・日本口承文芸学会例会は、「怪異」の聞き方・書き取り方―〈口承〉研究の視点から―と題して、二〇一五年十二月五日（土）、國學院大学渋谷校舎を会場に開催された。

そのテーマとして例会企画者たちが選んだのは、江戸から近代、そして現代にかけて、日本人は怪談をいかに聞き集め、いかに記録してきたのであるうか、という問題であった。すなわち、〈怪異〉を聞き取り、書き残すという営みに対する、口承文芸的な視点からの再検討を試みようとしたのである。

具体的には、日本近代文学研究を専門とする一名のゲスト（一柳廣孝）を迎えた上で、二名の会員（大島廣志、今井秀和）を含めた三名によるシンポジウム形式で行われた（敬称略）。全体の構想は、「江戸から近代、そして現代にかけて、日本人は怪談をいかに聞き集め、いかに記録してきたのであるうか。その営みに対する口承文芸からの再検討を試みたい」というものであり、先述の三名がそれぞれ近世・近代・現代を中心とした口頭発表を行った。

最初の報告者である今井は、「江戸期の転生騒動にみる〈怪異〉の聞き方・書き取り方の諸相」と題して、当時、肯定・否定が入り乱れていた転生騒動に関する考察を行った。具体的には、武蔵国の少年「勝五郎」の転生譚をめぐる江戸の知識人たちの反応や、勝五郎自身の語りに向かう姿勢の変化を対象に据え、〈怪異〉の聞き方や語り方、書き取り方（記録の仕方）の諸相が示す意味について迫った。

勝五郎の転生譚の周辺にいる人々には、それぞれ、当該事例に対する異なる認識を持つており、ときに否定派の見解には政治的な理由が含まれてもいるのであった。また、勝五郎自身が、家族、役人、学者などの周囲の反応に触れていく中で、語りに向かう姿勢を変えていったという問題は、個人史の「聞き方」をめぐる通時的なテーマを投げかけているとも言えるのではなかろうか。

続く一柳の「怪談を連載する―明治後期の新聞記事を中心に」は、明治三十年代後半から、新聞各紙が怪談の連載を始めたという事実に着目したものである。一柳は、自身の専門である日本近代文学における怪異の問題を踏まえた上で、文明開化というテーゼの下、「迷信」として排除されてきた「怪談」がふたたび脚光を浴びるようになった、時代の変化の背景に関する考察を展開する。そして、近代化を経て新たに登場した言説の場としての新聞メディアが、在地伝承の紹介だけでなく、実話性を強く打ち出した怪談をも発信していたことを指摘した。その背

景には、西洋由来の心霊科学というあらたな説明大系を経由した、近代ならではの怪談へのまなざしがあった。

また一柳は、情報の発信および収集という機能を持ち併せた新聞メディアが、読者をインフォーマントとして怪談を集めていたという、当時の怪談文化の側面を浮き彫りにする。それらは「地方」の固有性を強調するものであり、おそらくは当時における郷土意識の再編などとも呼応した動きなのであった。また、新聞メディアにおけるこのような試みには、紙面を使つての能動的な「地方」の怪異伝承の再発見および再話といった、現代の都市伝説の収集方法にも繋がりが得る、興味深い文化現象が含まれてもいる。

最後の報告者である大島の「学校の怪談と都市伝説」は、近代の記録にはじまり現代に至るまでの、ロングスパンでの「学校の怪談」の展開と変遷を論じた。そして、その過程に、師範学校や寄宿舎を含む学校システムの通時的变化や、一九九〇年代の「学校の怪談」ブームとメディアとの関わり、さらには、研究者によるアンケート、高校・大学の怪談記録、都市伝説とインターネットなど、情報の収集・発信に関する様々な因子が絡んでいることを明らかにした。

大島がとりあげた、怪談を集めて提示する近現代のメディア変遷の問題は、さきに一柳が示した、新聞紙面を用いた怪談の情報収集および再話ともつながっており、《怪異》の聞き方・書き取り方の通時的な変容の実態を示すものであったと言えよう。

各報告の順番は時代の流れを意識したものだだったが、図らずも全ての報告者が、前後の時代区分をも射程に含めた考察を行う結果となった。また、直接の聞き取りと、新聞やアンケートを通じての情報収集との違いなども、継続して考えていくべき問題として浮上した。

飯倉義之を司会に迎えた共同討議では、各時代の《怪異》へのまなざしが持つ特徴や、メディアと《怪異》との関係などに関し、報告者間における質疑が為されたが、各発表の内容や当日の議論などに関しては、以下に掲載する各論をご覧頂きたい。また、本例会を踏まえてあらためて我々の眼前にあらわれた、《怪異》をいかに措定するかという問題については、「本例会の総括」を参照されたい。

(いまい・ひでかず／国際日本文化研究センター)